

## HEA10Σ2021の方向性は？

# GLOBEとダイレクト連携

日積サーベイ(大阪市)が来春に3次元建築積算システム「HEA10Σ(ヘリオス)」の最新版をリリースすることし4月に大幅刷新したHEA10Σだが、最新版はどこを機能強化するか。BIM導入の建築プロジェクトが拡大する中で、HEA10Σユーザーからの要望も高度化している。田中好博取締役システム開発部長に最新版「HEA10Σ2021」の方向性を聞いた。

### そこが聞きたい

前回のバージョンアップでは64ビット化に加え、システム全体の大幅な改良を施した。部材を置きながら積算する「配置機能」を仕上げ部分から先行作業できるように改良したほか、S造建築物への対応も強化した。田中取締役は「この流れをベースに、最新版はより使い勝手を突き詰めた内容になる」と説明する。

最新版の追加機能は32項目にも及ぶ。前回から機能強化に乗り出した鉄骨拾いについてはプレースの配置入力を実現する。耐風梁にも使用でき

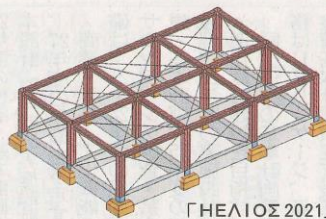
ユーザーの要望として多かった「中科目」についても対応する。既に工種ごとに材料を管理する機能「材料マスター」を導入しているが、最新版ではより細かく材料の項目を決められるよう、中科目の設定を加える。ユーザーにとっては「細かく材料を分類した管理が可能になり、作業効率化と積算精度の向上にもつながる」と強調する。



日積サーベイ取締役システム開発部長

たなか よしひろ  
**田中 好博氏**

建築設計事務所やゼネコンのBIM導入が拡大する中で、BIMソフトとのデータ連携を強化する一環として、



「HEA10Σ2021」は32項目を機能追加

同社はHEA10ΣとBIMソフトのダイレクト連携を推し進めてきた。2016年にオートデスクの「Revit」、17年にグラフィックソフトの「ArchicAD」とダイレクト連携環境を実現。最新版では福井コンピュータエレクトロニクスの「GLOBE」との連携にも踏み切る。BIMソフトとはアドイン形式で連携し、HEA10Σ向けにデータを出力できるようになる。「これまでユーザーから要望が多かったGL

OOBEとダイレクト連携が可能になることで、国内で進行中のBIMプロジェクトの大半をカバーできる」と考えている。

同社はバージョンアップに合わせ、最新版の機能をユーザーに先行解説する無料の全国セミナーを毎年開催しているが、ことしはZOOMによるオンラインセミナーで対応する。開催時期は11月5日午後2時から。例年の全国セミナーでは700人規模のユーザーが参加しているが、今回はオンライン説明会による効果などで、1000人規模の参加を見込む。

セミナーの参加は無料。関連会社「バル・システム」のホームページ(<http://www.val-system.co.jp/>)から申し込みをスタートした。田中取締役は「ユーザー目線で機能強化する最新版のポイントを知ってもらいたい」と話す。最新版の発売は21年2-3月を予定している。